



新・みやぎ・シー・メール第16号

発行：平成31年2月6日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

「高成長ギンザケ」について

内水面水産試験場

昨今、回転寿司などで人気のサーモンですが、ノルウェー等の外国産がほとんどです。そのような中、国内のギンザケ養殖発祥の地で、日本一の生産量を誇る宮城県の養殖ギンザケと、成長の良いギンザケをつくる育種の取組を紹介します。

宮城県の養殖ギンザケについて

ギンザケは、オホーツク海や北部太平洋海域に生息する冷水性の魚で、もともと日本には生息していないサケ科サケ属の1種です。しかしながら、成長が早く養殖に適しているため、1970年代に宮城県の志津川湾で国内初のギンザケ養殖が開始されました。東日本大震災により壊滅的な被害を受けましたが、翌年には生産を再開し、平成30年度の生産量は16千トンと、震災前より約1割増まで伸びています。

また、平成29年5月には、活け締めによる鮮度保持処理を施したギンザケが「みやぎサーモン」として農林水産省による地理的表示（GI）に登録されました。外国産サーモンに比べ、ほどよく脂が乗り、「生鮮で刺身で食べられる国産サーモン」としてますますの消費拡大が期待されています。



図1 宮城県のブランド魚「みやぎサーモン」

宮城県のギンザケ養殖ですが、稚魚は、陸上の淡水養殖場で秋に親魚から卵を採って翌年まで

育成し、11月頃に海の生け簀に收容されます。水揚げは早くて翌年の3月中旬に始まり、7月の終わり頃には終了します。

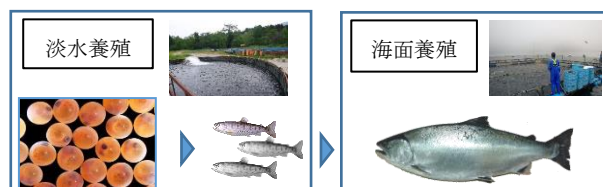


図2 ギンザケ養殖のサイクル

このように、ギンザケは海面で養殖可能な時期が限られているため、夏場にかけて水揚げが集中し、魚価が下落する傾向があります。そのため、魚価が高い水揚げ早期へ出荷前倒しをするために、成長の良いギンザケ系統が求められています。

成長の良いギンザケの育種と実用化に向けて

宮城県内水面水産試験場では、成長の良いギンザケを選抜して飼育することで、高成長系統を作出しました。淡水養殖や海面での飼育試験において、高成長系統は選抜をしていない無選抜群と比べて約1割程度、体重や体長において成長が良い結果となっています。

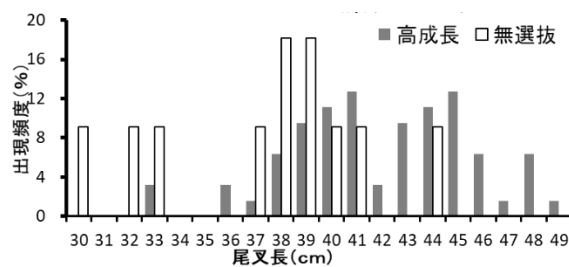


図3 小型海面生け簀での成長比較試験結果

この高成長系統を県内のギンザケ養殖場で普及させるため、平成30年度から試験場で採った種卵を民間の淡水養殖場へ搬送して稚魚を育て、海面養殖場へ出荷して育成する社会実装事業に取り組んでいます。この実際の民間養殖場での実証規模の飼育試験により、高成長系導入による生産コスト削減や販売単価向上といった収益性を評価し、高成長系統の実用化を進めていきます。

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>